

3. 面談記録

ブラジル・ブラジリア

(1) JICAブラジル事務所

- 1) 日系研修は、日系支援事業のなかでもっとも重要だ。
- 2) 日系社会の人材育成と日本語研修への援助は重要で、日系社会の活性化につながると良い。
- 3) 中学生研修に参加することを励みに、日本語を勉強する生徒は多く、地域社会と学校にインパクトを与えている。
- 4) 過去の中学生研修参加者が、現在なにをやっているかを調べてほしい。
- 5) 日系帰国研修員同窓会はまだない。作る熱意はあまり感じられない。
- 6) 事務所が直接リオやサルバドールを所管しているが、手が届かない。
- 7) 研修に参加できる日系人の範囲は？
(※注 事業団内部規定で“一概ね日系3世まで”となっている。)
- 8) ブラジルへ戻る前提で、出稼者を研修参加させることは可能か？
- 9) ブラジルで日系人は130～140万人。一世は20数万人。出稼者は22～23万人。
- 10) 日系3世は、3分の2以上が非日系と結婚している。
- 11) 長期留学生制度の審査は、現地事務所が行なっているが、滞日中の者も応募できるように、日本でも審査するようには？
(※注 14年度から国内審査が行なわれる見通し)

(2) 在ブラジル日本大使館

- 1) 日本文化を引きつぐべき日系人に、その意欲と自覚が薄れている。
親達は、日本に興味をもってほしいが仕方ないと、感じているようだ。
- 2) 日本文化を自覚させるために、日本に呼ぶのは良いこと。
- 3) ブラジル文化は、移民の文化が混ざったもので、日本の出自があってはじめて、ブラジルの文化に貢献できる。

(3) ブラジリア日本語普及協会

- 1) モデル校で、年に 4 回教師の研修会を行なっている。
- 2) サン・パウロの普及センター、ベレンの北伯普及センターとブラジリア日本語モデル校が中心になって、ブラジルの日本語教育を推進したい。
- 3) 本邦研修は、はじめての場合と再研修では、経験や能力に差ができるので、再研修は、期間を 2、3 ヶ月にして、レベルを高くしてほしい。
- 4) 基礎 I と基礎 II コースは、現地で研修の後、日本で仕上げるのが効果的。
- 5) 本邦研修にはじめて参加する、応用コースの研修員は、現地で教えてから日本に送ると良い。

(4) 帰国日系研修員

- 1)(97 年、栄養学)
研修は良かった。研究室で勉強した。支部の担当者がよくやってくれた。
- 2)(2000 年、コンピューター)
充実した 3 ヶ月だった。学会にも参加できた。
ブラジリア大学でやっていることを、別の視点から勉強できた。
- 3)(97 年、応用)
A J A L T と新宿日本語学校の先生方の経験と、参加国の日本語教育事情が異なることで、違和感があった。
遊びを取り入れて子供に日本語を教える方法は、帰国後役立った。
- 4)(95 年、日本語教師 3 ヶ月コース)
新宿日本語学校で実際の授業が見られて良かった。
夏休みはスクーリングに参加した。
- 5)(99 年、応用)
きちんと勉強できた。それまでの勉強不足を感じた。生活は快適だった。
- 6)(2000 年、基礎 I)
歴史の知識がなく日光や奈良、京都についてよく分からなかった

7)(2000 年、応用)

音楽教育を受けてない、2、3世の教師は、歌えなく楽譜も読めない。
玉川学園の音楽教育を、応用コースの必須科目にして、研修員に音楽の重要性を分からせるようにしたら良い。
研修から帰国した後、何かやらねばと思ったが、基盤体制がないので、教師仲間と普及協会を作った。その後、賛助会員や資金集めで苦労した。

サルバドル

(1) バイヤ日伯文化協会連合会

- 1) 8つの生け花講習を行なっている。ボランティアの派遣を希望する。
- 2) 日本語教師研修コース対象者ほとんどが研修済みで、まだの人達は、年齢制限を超える。
- 3) 研修に行きたくても、仕事の関係で行けない人達がいる。
- 4) 受入通知から来日までの時間が短い。
- 5) まったく新しい分野の研修は可能か？
(※注 応募者はインターネットで研修先をさがして、できるだけ内諾を取ってほしい旨、説明した。)
- 6) 日本語ができない者は、研修参加は不可能か？
(※注 日系研修は、日本語ができることが前提で、一般の技術研修のように、通訳を兼ねた研修監理員は配置されない。外国語で研修が行なわれるコースは、日本語ができない研修員も受け入れている。その場合、日常生活が円滑に送れるように、できるだけ、技術研修の前に日本語補完研修を受講させている。)

(2) サルバドル日本語モデル校

- 1) JICAの助成金で、92年に建設した。
- 2) 生徒数は、成人50名と子供26名。家庭で日本語を話さない子供達に

は、絵カードを使って教える。

(3) 帰国日系研修員

1)(歯内治療法)

研修の前の 1 年間、サルバドル日本語モデル校で日本語を勉強した。

研修は、指導の先生が良くしてくれて、勉強になった。

日本のレーザー技術は進んでいる。レーザー機器は高くて、バイヤ地方に 1 台あるだけ。

私のクリニックで小型機器を買う予定で、他の歯科医へ技術を伝えたい。

2)(レーザー治療、昭和大学)

帰国後米国の大学に論文を発表した。

昨年 6 月、リオで米国製の機器を買った。

3)(日本語教師研修)

日本語力は、祖母や祖父と話す程度だったが、研修で日本のことをいろいろ知ることができて、子供達の質問に答えられるようになった。

玉川学園以外の学校をもっと訪問したかった。

4)(応用)

着物の着付けと墨絵が役立つ。Eメールも覚えた。

玉川学園以外の普通の学校を見たかった。

5)(通信網設計)

帰国後、携帯電話の会社に入ったが、研修を活かすことができた。管理職になれたのも、日本の経験のお陰。

日本に行ってから、1世の両親のことが理解できるようになった。

日本の文化が分かり、ブラジル人に説明できる。

日本語を勉強して 1 級に合格した。

6)(93 年、経済学)

日本式経営の勉強をした。帰国後は職がなく通訳をやった。

現在、電話会社のマーケティング部門で働いている。

毎日の decision-making に研修が役立っている。

日本について視野を広めて、しっかりした自分を持てるようになった。

(4) J K 日伯文化協会

1) 5 9 年にサルバドールへ新鮮な野菜を供給する目的で移住地が作られた。

2) 現在 3 2 家族がおり、その内 2 6 名が文化協会に入っている。

3) 協会は、親睦、日本語学校、運動会、盆踊り、成人会、敬老会等の活動を行なう。

4) 日本語学校生徒研修は、地域に対象校が 7 校あり、希望者が多い。

同じ学校が続かないように、推薦学校を順番で変えることにした。

5) 日本の研修から戻ると、1 世の親達を理解するようになる。

6) 研修員の受入れ数を増やしてほしい。

7) 1 0 年に 1 度は、栽培作物を変えないといけない。

キノコ栽培を始めたい。日本で研修を受けたいが、年齢制限を超えた。

ベレーン

(1) 在ベレーン日本総領事館

1) 金利が高い。市場に左右されて、日系人を取巻く経済状況は厳しい。

2) 日本語を学校で熱心に習う子供は少ない。日本に出稼ぎに行くと上手になって戻ってくるが、日本語学習はその下地になっている。

(2) J I C A ベレーン支所

1) 日系団体の若いメンバーが減っている。都市部でその傾向が強い。

2) 農業で家計が維持できない状況で、多くの日系人が日本へ出稼ぎに行く。

3) 出稼ぎが増えると、農業をつづける人達がいなくなり、農業がますます成り立たちにくくなる。

- 4) 出稼ぎで、移住地が人手不足のために警備体制が組めなくなり、治安の問題が生じる。
- 5) 出稼ぎ経験者が、研修に応募した時は、また出稼ぎに行く可能性があることを考えて、落としていたが、その区別をやめることを検討している。
- 6) ベレン市内の日系人は、医師や旅行代理店など、都市型の職業に就く者が増えている。
- 7) 日本語学校生徒研修は、枠3名に対して7～8名の応募がある。
もっと、人数枠を増やしてほしい。
- 8) 1世、2世、の間で、日本語能力を維持したい気持ちに、違いがある。
- 9) 日系研修募集要項を、ポルトガル語に訳している。
- 10) 日系研修の応募者面接は、支所長と汎アマゾン協会事務局長が行なっている。
- 11) ベレン支所の日系研修募集に係る問題点等についての考えは、次頁以下のとおり。

日系研修員募集に係る問題点、対策等について

ベレーン支所

1. 問題点

(1) 「日系研修の目的は何か」につき明確にすべき。

本研修制度は本来は日系社会への裨益を目的としているが、日系社会への支援をいかにすべきかに関する日系団体側の中・長期的なビジョン、戦略が明確になっていないこともあり、今後必要となる人材を本制度を通じ養成する事が行われていない。

(2) 日本語能力が年々低下している傾向が見られます。

(3) 研修対象の青年層が本邦へ出稼ぎに出ており、対象者が減少している。

(4) 研修修了者に対し、研修効果を生かせるような職場が少ない。

(5) 東部、西部アマゾン日系団体の中央組織から傘下団体への連絡網に弱

いところがあり募集通知が十分に行き届かないところがあります。

募集に当り、現地サイドでは日系団体に業務委託して実施していると

ころ、募集活動のマンネリ化現象があり徹底に欠ける面があります。

2. 検討事項

- (1) 日系社会に貢献し得る出稼ぎ青年の研修参加への検討。
- (2) プロ技協のカウンターパートと成りうる日系研修員の積極的リクルート。
- (3) オリエンテーション資料の整備。

3. 対策

- (1) 現地日本語学校教育の強化、充実。研修員の出発前日本語特設コースの設定等。(出発前日本語研修経費の予算化)
- (2) JICA の実施する本研修事業に対する日系社会の意識向上の促進及び、継続的二一ズ調査の実施。
- (3) 広報活動のための OB (研修修了者) 会の活用。

4. 日系有識者の育成シンパ育成を目的とすべきか。

(ベレーン支所- つづき)

日系研修コースについて

- 研修コース -

- コメント -

(集 団)

日本語教師基礎

日本語教師基礎 1

若手教師の減少でリクルートが困難

日本語教師基礎 2

同上

日本語教師応用

現役の殆どの教師は研修修了者で、

応募者は少数です。

日本語専修

応募者が少数です。

一般技術研修

継続実施を希望します。

情報処理

日本語学校生徒研修

応募者が多く継続実施を希望します。

(個 別)

長期技術研修

医学分野 重要な研修コースで継続実施を希望

歯学分野 同上

保母・幼児教育 応募者は少ないが特殊で重要科目

一般技術分野 応募者は多く継続実施を希望

研究者研修 重要なコースで継続実施を希望

短期技術研修

医学分野 重要なコースで継続実施を希望

歯学分野 同上

一般技術分野 同上

研究者研修 同上

研究交流型研修 重要なコースで継続実施を希望

(3) 汎アマゾン日伯協会

- 1) 協会の運営は、1世から2世に移りつつある。現在、役員の6割が2世。
4年前に会議の言葉を、日本語からポルトガル語に変えた。
- 2) 協会は、単に日系というだけでなく、何か魅力があることをすることが大事で、日本の文化、伝統、スポーツを看板とした会社のような組織に変える必要がある。
- 3) 日本語学習者は、日系人が減り、非日系人が増えている。
全体の生徒数は減少し、日本語学校の経営が難かしくなっている。
- 4) 日系人が日本語を学ぶ1番の動機は、必要性に迫られてというのが多い。
また、2世の親は、自分自身が勉強できなかったことが残念で、3世の子供達に学ばせることがある。
- 5) 日系研修を続けてほしいが、行ける対象者は減っている。
- 6) 日本語教師研修3ヵ月コースは、日本語に不安を持っている者にとって良い、役立つ研修だった。
- 7) 日本に行く前に日本語クラスがあったが、うまくいかないのをやめた。

(4) 帰国日系研修員

- 1)(96年、日本語3ヶ月)
40年ぶりの日本の現状がよく分かった。
帰国後、教材作成、リトミック、楽しい授業をする方法が、役立った。
また、教師はどうあるべきかが理解できた。
- 2)(98年、日本語学校生徒研修)
日本にはじめて行って、雪をはじめて見た。研修は、良い思い出ばかり。
来日前に父から聞いていた、日本の良さが分かった。
- 3)(97年、応用)
幼児教育の講義が仕事に役立った。
モンテッソーリ幼児教育の実際について研修を受けたい。
学校経営について研修を実施してほしい。

非日系の生徒も、研修に参加できるようになると良い。

4)(2000 年、応用)

94年に日本語3ヶ月コースの研修を受けた。応用では、目的をはっきりさせたいと思って参加した。それまで自分のやり方でやっていたが、ほかの方法を知ることができて、役立った。

学校経営の研修があると良い。

また、非日系の生徒を増やさないと経営がむずかしい状況だが、彼らを研修に送れないか？

5)(94年、日本語3ヶ月)

授業は良かった。

研修で得たワープロの知識が、今のパソコン使用につながっている。

アシスタントに研修の機会を与えたいが、代わる者がいなく、送れない。

小学5年生ではじめて日本語を勉強する生徒がいたが、1世教師は教えられない。2世の先生は、自分の習ったことしか教えられない。

日本語教師研修を受けて帰国しても、教師の仕事で生活できない状態だが、JICAでなにかできることはないか？

6)(97年、応用)

私の学校の生徒は、全員が成人で、日系、非日系は半々。しかし、研修は児童対象だった。

学校経営は赤字で、後継者を育てたいが、できる状況でない。

(5) 汎アマゾン日伯協会 日本語普及センター

1) 日本語教師の研修会や勉強会を開いている。

2) 教科書や教材を作成する。米国製の日本語教科書はよくできているが、絵の内容が南米に合わない。

日本語能力試験の各級の程度に合わせた指導書を作っている。

3) JICAの支援で、コンピューターを使った授業に使う目的で、10数校にコンピューターを備えた。ソフトは一時帰国の時、日本で買った。

- 4) 生徒が数十人集まれば、苦しいがなんとかやれるという状況
- 5) 教師達は、勉強しようという熱意がある。
- 6) コンピューターの青年ボランティアを派遣してほしい。

(6) ノーボ・ムンド日伯学園

- 1) 幼稚部は、今年が3年目で、児童数は110～120人。1～3才児はポルトガル語のみ。3～6才は、午後踊りや空手などのクラスがある。
- 2) 日本語学校は、5年目で、初級から成人まで15クラスに82名。
- 3) 非日系生徒は、60～70%
- 4) 去年まで、日系2世の教師が2人いたが、やめた。
現在、大学の教育学部で日本語を学んでいる2世がいる。

(7) アマゾンア日伯援護協会

- 1) 30～35才の日系人の多くが、子供連れで日本へ出稼ぎに行っている。
- 2) 広報担当の青年ボランティア1名が、協会に派遣されている。

アルゼンティン・ブエノスアイレス

(1) J I C A アルゼンティン事務所

- 1) 日系人への不況の影響は大きい。
- 2) 花卉栽培は、95年以降不況。
- 3) ブラジルで、オランダ系の花栽培組合がうまく行っていることを、アルゼンティンの同業者は、警戒している。
- 4) 日系クリーニング業者は、大規模チェーン店におされている。後継者不足の問題もある。
- 5) 日系人の医者や弁護士は、500名位いる。
- 6) アルゼンティンの日系人は、入植の経緯などが複雑に異なるなどの背景があり、団体同士のつながりが弱い。
- 7) 福祉制度は貧弱。この分野で協力する必要がある。
- 8) J I C A の援助でできた老人ホームが、1つあるが、入居条件がきびしく、入居者は1名だけ。
- 9) 花の研修コースをやってほしい。栽培だけでなく販売も研修して欲しい。
- 10) 農協のコースは良い。
- 11) 募集のポスターを事務所で作る。

(2) 在アルゼンティン日本大使館

- 1) 日本の農協制度や仕組は、アルゼンティンに応用可能だ。少し前の状況が参考になるだろう。
福岡の農協で研修を受けた、日系帰国研修員は、『大変役に立ち刺激になった。』と言っている。
- 2) 日系団体連合会が、諸団体をまとめるのはむずかしい面があるようだ。
- 3) クリーニング大手業者が、乾燥に発ガン性物質を使っていることが、新聞に書かれて問題になった。

- 4) 一時は、日系人の70%がクリーニング業に従事していた。その後、減少したが、最近また戻って来た。

(3) 在亜日本語教育連合会

- 1) 日本人会の下部組織で、メンバーは24校。生徒数は約1,500名、教師100名位。
- 2) アルゼンティンの生徒は、3、4世。ブラジルなどと比べて、日本語能力は低く、それに合った教授法にしないといけない。
- 3) 日本語教育は、国語教育から外国語教育に変えないといけない。
- 4) アルゼンティンの日本語教師は、1世は数名で、ほかは2世。
- 5) 1世の教師は、流暢に話せるけれど、教え方がわからない。
- 6) 日本語学校生徒研修と日本語教師研修を、ぜひ続けてほしい。
- 7) 基礎Ⅰ、基礎Ⅱ、応用の分け方や大枠は、基礎Ⅰが、日本語力が低い人を対象に運用力をつけさせる、基礎Ⅱは、日本語力がある人を対象というふうで、とても良い。
- 8) 日本語教師研修の期間は1年がよい。四季を知ることができる。また、新宿日本語学校などで、じっくり研修できる。
- 9) 日本語教師研修の再研修は、4〜5年後でなく、3年にしてほしい。
- 10) 応用コースは、文法について、しっかり教えてほしい。
- 11) 応用コースは、管理者コースに特化すべきだ。
- 12) 日本語学校生徒研修は、3名枠だが、1名増やしてほしい。

(4) 在亜日本語教育連合会福祉センター

- 1) ブエノス・アイレス周辺の、寝たきり老人10数名を世話している。
- 2) 体の不自由な老人が、ひとりでできるリハビリ法を説明したマニュアルを作って1部ドルで売っている。

- 3) お金のある寝たきり老人は、メイドを雇って介護してもらっている。
- 4) 日系老人ホームがあるが、入居者はほとんどゼロ。
- 5) アルゼンティンの状況に合わせて、在宅看護技術 70%、制度について 30%、という内容の研修コースを希望する。

(5) 日亜学院

- 1) 移民の奥さんが、74年前に日本語を忘れないように始めたのが発端。
- 2) 14年前にバイリンガル校として認められた。
- 3) 幼稚園、小、中学校の生徒数は、330名。
割合は、日系70%、中国系20%、その他10%
- 4) 土曜クラスは、日本語を勉強したい小学生が増えて来た。
- 5) 最近日本がブームになった。成人クラスがある。アニメの影響や日本の規律への興味等で、学習者は年々増えている。
- 6) 困る点は、子供達自身が日本語の必要性が分かってないこと。
授業では、工作や理科の実験を通じて、楽しさを感じさせている。
- 7) 教科書は、独自に作っている。
- 8) 日本語教師は、亜国の教師免許を持った2世がほとんどで、1世は3名。
- 9) 2年前まで青年ボランティアがいたが、今はいなく、困っている。
- 10) 経済状況が悪いため、月謝を払えずにやめる人がいる。

(6) 帰国日系研修員 (於 日亜学院)

- 1)(92年、日本語3ヵ月)
非常に満足した。研修内容は、至れりつくせりで、注文はない。
講師の先生方は、プロ意識と高い目標を持ち努力している、と感じた。
去年で日本語教師として10年経ったが、教師としての考えを持てた。
- 2)(96年、日本語3ヶ月)

教授法は大事だ。教授法や教材作りのすべてが、勉強になった。

歌舞伎やお寺など日本文化を肌で感じて、日系人として誇りを感じた。

教材作りは、受け身でなく、助言しつつ実際に作らせてはどうか？

3)(97年、基礎Ⅰ)

全体に良かった。課題研究が一番役立った。教材作りも役立っている。

私は児童を教えており、講師の先生方は成人対象だったが、教わったことは役立っている。

実習がなかった。教材を自分で作りたかった。

4)(93年、日本語12ヶ月)

習ったことは、とても役に立った。AJALTや新宿日本語学校での模擬授業は、つらいが勉強になった。

1年は短かく感じられた。現在の6カ月は、教授法の勉強には短い。

(7) 帰国日系研修員同窓会

1) ペルー、ポリビア、パラグアイ、アルゼンティン、ウルグアイ、ブラジルの6カ国が、順番で連絡会議を開く。切符代の半額は同窓会が負担。

2) 年に2回懇親会を開く。

3)(2000年、花卉栽培)

1世の花卉栽培のやり方は、大学卒が多い2世から見て、魅力的でない。

新しい花が収益を生むまで5年かかる。

小麦などの栽培技術は、研究者もいて研究されている。

花は大学であまり教えない。

4)(99年、簿記)

研修は基礎的だった。こちらで日系企業の監査をしていたが、日本の研修先は簿記学校で、内容が基礎的すぎた。

5)(同窓会会長、89年、自動車整備)

農協分野の研修コースをぜひやってほしい。花卉業者などは、市場価格をどうすることもできず、生産コストを下げるしかない。

販売面で、農協ができることについて研修してほしい。

(8) アルゼンティン園芸総合試験場

1) 業務は、試験研究、普及、研修。集団コースを年 2 回テーマを変えて実施し、個別コースは、6 カ月～1 年で、今 13 名を受け入れている。

2) 平成 12 年度に、JICA の移住関連から技術協力の予算に移った。

3) 帰国日系研修員は、学んだことを実際に活かしている。

また、研修で得たコネを通じて、情報収集をしている。

4) 日本の農協の研修は有益。若い日系人が意識を改革するきっかけになる。

5) ア・国では、農協は販売物を集めて、10% の手数料を取って売るだけ。

日本のように、総合機能の農協はない。

6) コロンビアの花が、安く売られている。

7) 花は、セリ売りがなく、良い値で売れない。

もっとも、セリ売りの導入の前に、花の規格化が必要だが、..。

8) ポリビア人などの外国人を雇って栽培すると、2～3 年後、彼らも自分達で同じ物を作り出して、値崩れを起こす。

9) 生で野菜を食べるので、消費量が少ない。

煮炊きして食べることを広めないと、量は伸びない。

10) 東洋野菜は、現在日系人が作っているが、非日系人が栽培できるようにしたい。

(9) ブエノス・アイレス郊外帰国日系研修員農家

ローマ・ベルデ地区

1) (ゼラニウム栽培、短期研修)

日本から持って来た苗を育てている。ずっと前はバラを栽培した。

3年前、カーネーションに病気が出てやめた。今は、ハチ物が主体。

2)(92年、バラ栽培、40日間)

ボイラー設備があるので、冬に使えば生育によいが、ペイしないので使用しない。バラを50km離れた農協に出荷する。

観葉植物を栽培する資金がない。父の代はよかったが、現在は苦しい。

3)(95年、バラの栽培、45日間)

日本で、ミニバラ、切りバラ、折り曲げ栽培を研修した。

切り花は市場に出し、ハチ物は直販する。

セラージャ地区

4)(96年、約40日間)

いろいろなラン栽培農家を見て、参考になった。研修は、実習がなくて見学だけでも、勉強になる。

自分なら45日の研修期間が限界だが、後継者は、1年間、栽培の1サイクルを研修させたい。

以前は農園で売ったが、今は3人の仲間と一緒に販売する。栽培と販売の両方は大変で、栽培がおろそかになる。

以前は、作れば売れたが、今は良いものだけが売れる。現在は不景気。

価格は一定で高くない。この10年は、現状維持で精一杯。

(10) 在亜日系団体連合会

1) 39団体が加盟し、ほとんどは親睦団体。

2) 日本からの来訪者の歓迎、福祉関係、全国的なことなどを行なう。

昨年から、移民史を編纂している。

3) 各団体の理事・代表が出席して、全国的なことについて話し合う。

- 4) 組織運営に明るい人材が少ない。JICA研修で養成してくれないか？
- 5) 在宅介護の研修をぜひお願いしたい。
- 6)(会長自身が) 花栽培をしているが、販売について研修コースをやってほしい。

(11) CENTRO-NIKKEI

- 1) 15年前にできた。会員は500名。
毎月、会誌「NIKKEI-ARGENTINA」(西語)を発行。
- 2) 3年前の役員改選で、50～60代から30代へ若返った。
- 3) 琴と着物のショウなどの日本文化行事を行なう。
最近、日系農家が、洪水や暴風雨の被害を受けたが、3月に日本庭園でチャリティーの集いを開く。
- 4) 若手日系指導者のためセミナーを開催した。
- 5) 若い日系人の会を10回実施して、日本の大使や日本人と会ってもらう機会でもあった。
- 6) 米国ロス・アンジェルス日系博物館に、情報提供の協力をしている。
- 7) 今年ニューヨークで開かれる日系団体会議に、アルゼンティン代表として出席する。
- 8) アルゼンティン人の日本人観は、1世の勤勉や正直さのお陰で、とても良い。日本や日本人を悪く言う人はいない。
- 9)(調査団が資料として持参した) 研修機関リストは参考になる。